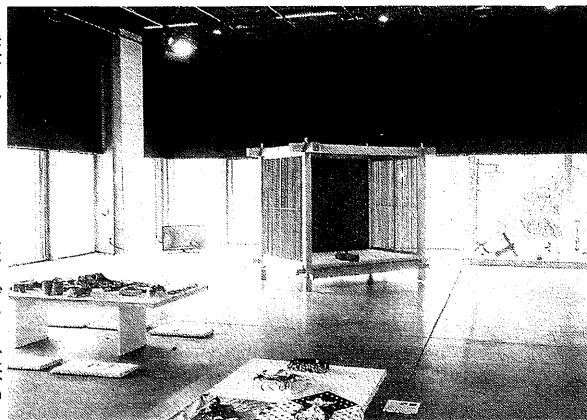


# 日本の木組み文化、欧州へ

## オークヴィレッジ

### 木の家「KOMAKO」がベルギーで研究対象に



展示中のKOMAKO（ホーゲント大学のゲント王立芸術アカデミー）

オークヴィレッジ（岐阜県高山市、上野英二社長）の伝統的な木組みを用いた小さな木の家「KOMAKO」が、ホーゲント応用科学大学（ベルギー・セント市）のフューチャーズ・スルー・デザイン（FTD）研究所の、現代的な循環型の家具システムの提案を試みる研究に採用され、このほど同製品をベルギーに輸出した。

KOMAKOは、木造フレームに建具や組み立て・解組を組み合わせ、木の空間を造ることが可能

きる製品。木造軸組工法で、国産松の柱・梁を使った2畳の空間となる。

FTD研究所では、研究プロジェクトの一つとして日本の木組みの技術や文化を研究し、欧州の生活と社会的状況にあった現代的な循環型の家具システムの提案に取り組んでいる。この一環で、伝統工法を使った家具や木造建築を通じて循環型社会を目指している

オークヴィレッジに問い合わせがあり、ベルギーへのKOMAKO輸出が進められた。

製品は、同研究所の研究員の手によって組み立てられ、大学内の研究成果発表会で展示された欧州のデザイナー関係者などが見学した。オークヴィレッジでは「当社の創業時からのモノづくりに対する考え方や技術、暮らしに寄りそった提案などが欧州で評価されるきっかけとなった」としている。

なお、同研究所との新たな協業の取り組み

として、欧州の家具業界での循環型デザインへの要求に 대응するために開発中の「木組みのモジュラー家具システム」に対し、アドバイザーとして協力することで合意した。